

令和4年度
事業報告書

ともに生きる
豊かな地域社会



社会福祉法人
新居浜市社会福祉協議会

	目	次
概要		1
重点目標結果		3
1 地域福祉の推進		
(1) 小地域福祉活動事業		4
(2) 企画・広報事業		5
(3) 共同募金運営事業		
(4) 民生児童委員協議会連携推進事業		
(5) 福祉施設協議会運営事業		
(6) 地域福祉バス運行事業		6
(7) 地域福祉バス運行事業（別子校区）		
(8) 福祉用具貸与事業		
(9) 日本赤十字社愛媛県支部新居浜市地区運営事業		
(10) 会員制度啓発推進事業		7
(11) まごころ銀行の運営		
(12) 総合福祉センター（本館）管理運営事業		
(13) 総合福祉センター（別子山分館）管理運営事業		8
(14) 地域包括支援センター協力機関業務（別子、金栄・金子）		
(15) 生き生きデイサービス事業（別子校区）		
2 児童福祉の推進		
(1) 児童館運営事業		9
(2) 児童健全育成事業		10
(3) エンゼルヘルパー派遣事業		11
3 障がい者福祉の推進		
(1) 障がい者福祉センター運営事業		12
(2) 障がい者サロン事業		
(3) 障がい者在宅福祉対策事業		
(4) 地域福祉活動支援センターⅢ型「いぶき」運営事業		13
(5) 生活介護事業		
(6) 児童発達支援事業はげみ園		14
(7) 障がい者居宅介護等事業		
(8) 障がい者等移動支援事業		15
(9) 相談支援事業		
4 高齢者福祉の推進		
(1) 独居高齢者見守り推進事業		16
(2) 高齢者福祉センター運営事業		
(3) 居宅介護支援事業		18
(4) 訪問介護事業		
(5) 認知症対応型通所介護事業		19
(6) 訪問介護事業所職員連絡会運営事業		
5 権利擁護の推進		
(1) くらしの総合相談・支援事業		20
(2) 生活福祉資金貸付事業		
(3) 福祉サービス利用援助事業		
(4) 法人後見事業		21
(5) 生活困窮者自立支援事業		
(6) 緊急食料等支援事業		
(7) 新居浜を明るくする運動推進事業		
6 ボランティア活動の推進		
(1) 福祉ボランティア推進事業		22
(2) 福祉教育、生涯福祉学習		23
(3) 災害ボランティアセンター設置運営事業		24
7 社会福祉協議会の運営の強化		
(1) 理事会・評議員会の運営		25
(2) 財務運営、管理		
(3) 人事管理・人財育成		
(4) 労務管理		
(5) 社協発展・強化、その他計画の策定と進行管理		
(6) 広報活動・広報戦略		

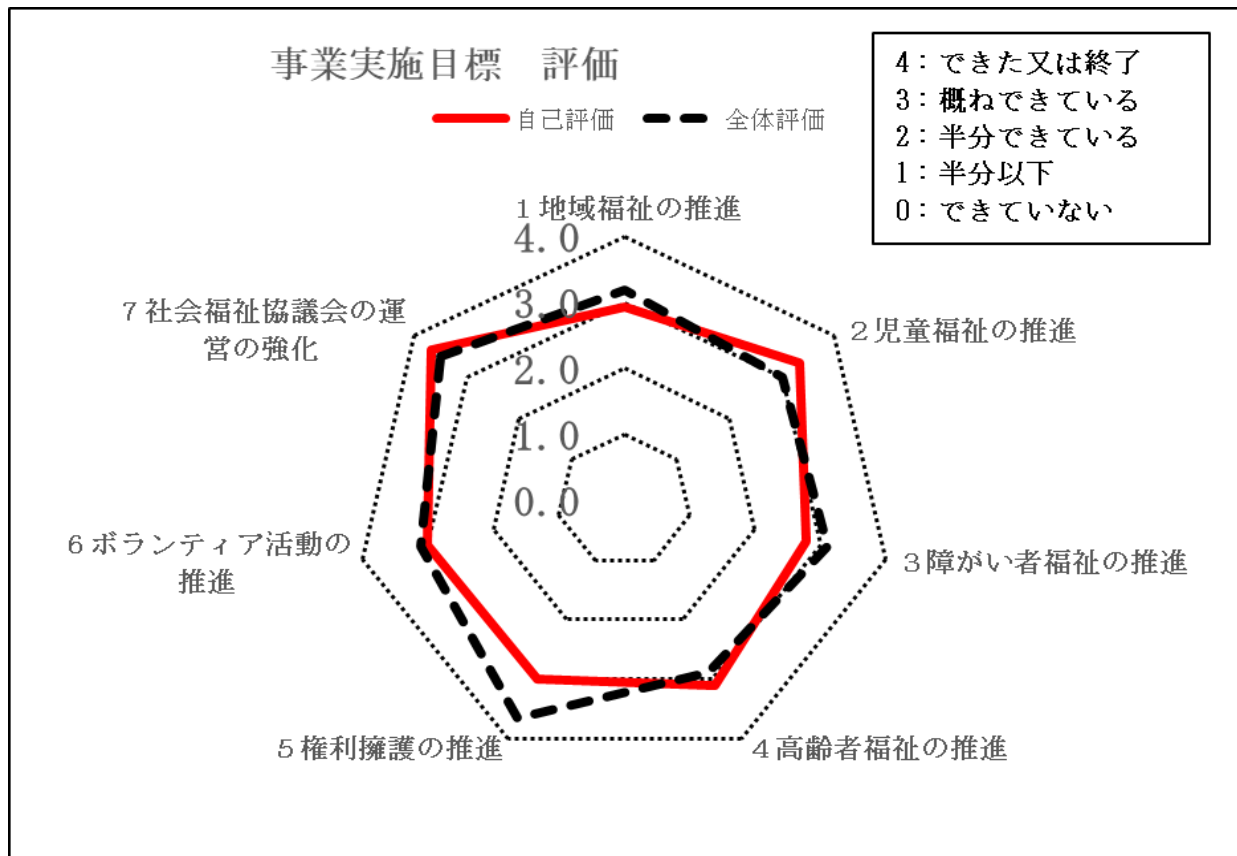
令和4年度 新居浜市社会福祉協議会 事業報告

概要

令和4年度は、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威をふるった1年でありましたが、感染症対策を行いながら、徐々に活動を再開することができた1年となりました。

コロナ禍により、人と人とのつながりがさらに希薄化し、地域課題の複雑化やニーズの多様化、また、人口減少による福祉を支えるマンパワー不足など社会環境が変化していく中、地域福祉の推進主体である新居浜市社会福祉協議会は、地域の生活課題を組織一丸となって受け止め、アウトリーチの徹底、相談・支援体制の強化を行い、新居浜市や民生児童委員をはじめとする地域の様々な関係機関・団体と連携を図り、地域課題の解決に取り組むとともに、だれをも排除しない地域社会づくりに取り組みました。

住民一人ひとりが、生活における楽しみや生きがいを見出し、生活上のさまざまな困難を抱えた場合でも、日々ともに支え合い、社会から孤立せず安心して、その人らしい生活を送ることができる「ともに生きる豊かな地域社会」の実現に向けた活動を展開しました。



重点目標結果

1 地域福祉の推進

職員各々が担当する地域の活動や会議等に参加し、情報収集を行いました。社協内の情報共有や課題解決に向けた協議に到りませんでした。

2 児童福祉の推進

感染対策を行い、安心して児童館を利用していただきました。
「出前児童館おしながき」を配布し、活動再開した団体等からも依頼を受け、利用が増えました。

3 障がい者福祉の推進

【障がい者施設課】

感染対策を行いながら、地域住民との交流会を継続して実施することにより、今まで培ってきた関係を絶やさず事業運営ができました。また、感染対策の見直しを行い、継続的なサービス提供が可能となるよう事業継続計画（BCP）を策定しました。

【児童発達支援課】

多数の新型コロナウイルス感染者が確認されましたが、事業所を閉める事なく、継続して発達支援・子育て支援を行うことができました。関係機関から紹介されたケースの相談にすぐに応じ、スムーズに療育が開始できました。また、研修を受講し事業継続計画（BCP）策定の準備を行いました。

【介護事業課】

訪問介護員が利用者の居宅において安心、安全に自立した生活を営むことができるように、多様なニーズへの迅速な対応を関係機関と連携を図り、サービスの提供を行いました。人材育成については情勢に合わせ、オンライン研修、事業所内研修にて取り組みを行いました。また、利用者、家族の声に常に耳を傾け、信頼されるよう日々の業務改善にも努めました。事業継続計画（BCP）は様々な研修を受講し策定の準備を行いました。

4 高齢者福祉の推進

【高齢者施設課】

高齢者福祉センターでは感染対策を行い、生きがい創出事業や健康づくり事業を実施することで、利用者が安心して、笑顔で気軽に利用できる施設運営を行いました。社協内での連携により、更なるサービス提供を行うとともに関係機関との協働事業を実施しました。

【介護事業課】

高齢者が介護を必要とする状態になっても、住み慣れた地域で人としての尊厳を保って生活できるよう、またできる限り在宅において自分の力で生活できるよう自立を支援するため、本会で運営する4つの介護事業において、利用者ニーズを反映できるサービスが提供できるよう基盤整備に努め、介護や予防援助を必要とする高齢者の在宅生活を支援しました。事業継続計画（BCP）は様々な研修を受講し策定の準備を行いました。

5 権利擁護の推進

コロナ禍による減収や物価高騰の影響による貸付の相談をはじめ、複合的な生活課題を要する生活困窮者の自立支援、障がい者の権利擁護支援など、様々な相談に対応しました。困難な課題については関係機関との連携を図り、粘り強く伴走支援を実施しました。

断らない相談支援をモットーに、困難な相談でも対処できるよう常に研鑽に努め、支援に際しては利用者の尊厳と自立助長を心掛け、対等な関係性を保ち、利用者自らが選択し主体的に課題の解決に向けて行動できるように取り組みました。

6 ボランティア活動の推進

会議や講座で実施したアンケート結果から課題や要望を把握し、必要なボランティア活動に繋げました。

単独のホームページやLINEからの情報発信を積極的に行ったこと、中高生対象のボランティアチャレンジを広報したことにより、若い世代の活動参加者が増加しました。

7 社会福祉協議会の運営の強化

研修で知識技術の向上を図り、事業運営、財政状況を見える化して各課の課題の共有を行い、課間の連携のきっかけを作りました。

実施項目

※・・・項目の記述内容

1 地域福祉の推進 [※事業実施目標]

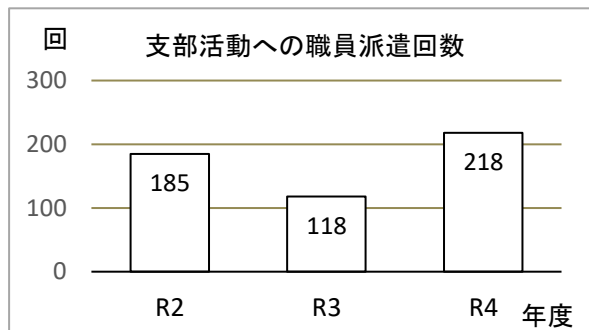
(1) 小地域福祉活動事業 [※事業名]

①社協支部活動推進事業 [※小項目事業名]

地域福祉推進の中核となる社協支部の活動拠点整備、財源確保、組織強化、その他活動支援を行いました。 [※事業内容]

地域での活動や会議に参加し、情報共有を行いました。予定していた全体研修はコロナのため開催できませんでした。まちづくり組織の設置に関して、行政から担当者を招いて説明を受け、まちづくり組織と社協支部の関係性について支部連絡協議会内で協議しました。

[※課の目標や職員目標管理等による結果]



[※過去からの推移グラフ等]

・会議、研修会など

種別	回数	出席者数	内容
社協支部連絡協議会	6	102	令和3年度事業報告、令和4年度事業計画他
分野別研修	1	9	会計研修
先進地研修	0	0	未実施
初任者研修	1	20	市社協と社協支部の活動等説明

②大島校区・別子校区地域福祉活動支援事業

高齢化率の高い、島しょ部・中山間地域に対する地域福祉活動への支援を行いました。

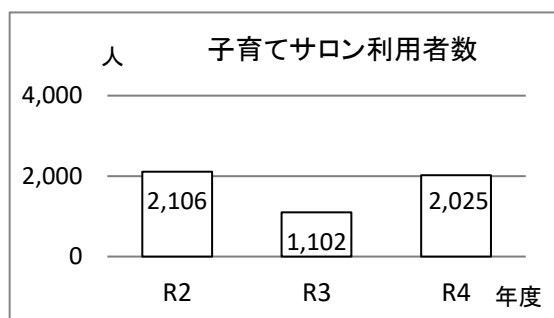
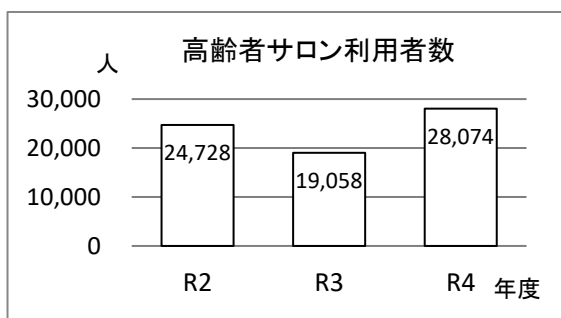
【大島校区】2層協議体の中で継続的に協議を行っていますが、移動支援に関しては、まだ不明瞭な状態です。買い物支援に関しては、移動販売等充実してきましたが、場所の確保など新たな課題も見えてきました。

【別子校区】十全看護専門学校や児童施設課との連携により、関係人口創出事業を実施しました。また、新規事業を考察しました。

③サロン支援事業

地域の高齢者・子育てサロンの内容の充実と普及を行いました。

ランチ業務を行う地域ではサロン活動への協力が行えました。コロナによる事業の中止等で、サロンと各課との連携支援が行えませんでした。



(2) 企画・広報事業

愛媛県社会福祉大会参加、社会福祉大会・生き生き幸せフェスティバルを企画、実施することにより、広く地域に福祉の啓発を行いました。

【福祉大会】コロナ対策を十分に行い、規模を縮小し被表彰者と関係者のみで開催しました。また、地域で活躍されている方を幅広く表彰できるよう表彰要綱を見直しました。
 【生き生きフェス】コロナ禍での開催を前提として関係機関と協力しながら進めていましたが、感染者数が増加傾向にあり実施できませんでした。

種別	日程	参加者数	内容
第69回愛媛県社会福祉大会	10月31日	13	規模を縮小し、式典のみの開催となったため、被表彰者と関係者のみが参加しました。
第26回生き生き幸せフェスティバル・ボランティアフェスティバル	中止		
第40回新居浜市社会福祉大会	12月3日	66	規模を縮小し、総合福祉センターで開催しました。表彰及び「ふくし」の作品最優秀発表を行いました。

(3) 共同募金運営事業

赤い羽根共同募金に関する募金活動、啓発活動、配分事業を行いました。

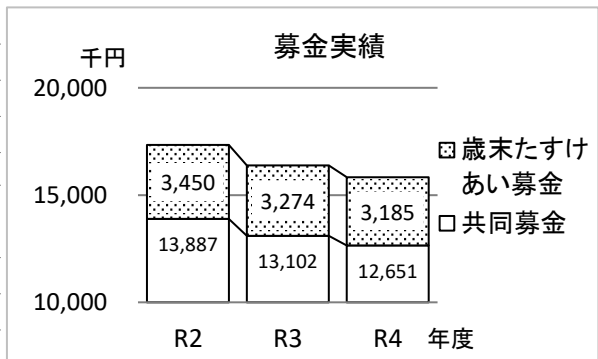
2年間で150ヶ所から約250ヶ所の事業所へ職域募金を拡大しました。街頭募金の代わりに店頭募金での協力やガチャポン募金なども継続的に実績がありました。社協だより、横断幕などで啓発活動を行いました。

・募金実績

募金種別	共同募金	歳末たすけあい募金
期間	10/1~3/31	12/1~12/31
目標金額	15,970,000	3,816,000
募金金額	12,650,735	3,185,425

・配分実績（新居浜市の地域配分）

募金種別	共同募金	歳末たすけあい募金
配分団体・事業数	24	18
配分金額	5,045,379	3,174,132



(4) 民生児童委員協議会連携推進事業

会議への参加・協力により連携を行うとともに、見守り推進員との連携を促進し、連絡調整を行いました。

会議に参加しながら、連絡調整を行いました。民生児童委員が一斉改選され、新規の方との連携は、まだ不十分のため、今後の対応が必要です。

(5) 福祉施設協議会運営事業

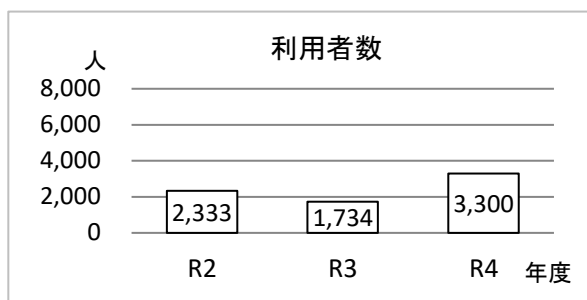
市内福祉施設の情報交換や相互連携の支援を行いました。

コロナ禍でもZOOMを活用し定例会・研修会を開催しました。定例会では、コロナ感染クラスターが発生した施設に状況と対策を発表いただき情報共有できました。研修会では、防災士を招いて施設での防災について学びました。

(6) 地域福祉バス運行事業

高齢者福祉センター利用者の送迎を行うとともに、福祉団体の研修等で有効活用しました。

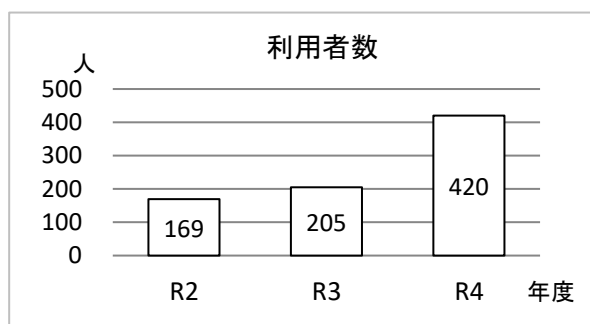
乗車人数の制限など感染症対策を行い、事業を継続しました。定期コースの利用について担当課と協議し、今後の補助金について市担当課と協議していくことになりました。車両の老朽化による故障が避けられず、バスは2台所有しますが常時1台のみ運行する方針を決め、利用団体等へ通知しました。



(7) 地域福祉バス運行事業 (別子校区)

生き生きデイサービス及び分館の利活用日に送迎しました。また、地域住民の社会参加を促進する活動に利用しました。

運転業務の委託について市担当課と協議しました。



(8) 福祉用具貸与事業

施設入所者の一時帰宅や介護認定申請中の利用等に対する車椅子等の貸与を行いました。

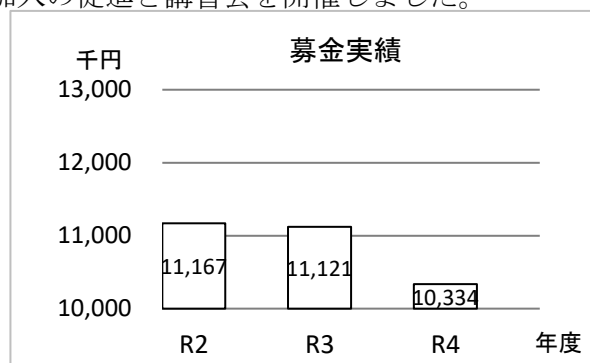
使用方法や期間などを利用者に説明し正しく利用していただきました。また、用具の点検、整備を定期的に行い、特殊用具については工業高校の協力を得て整備しました。

(9) 日本赤十字社愛媛県支部新居浜市地区運営事業

赤十字活動の周知を行い、日本赤十字会員加入の促進と講習会を開催しました。

募金依頼する企業の追加登録を進めましたが、詳細な情報が入手できませんでした。

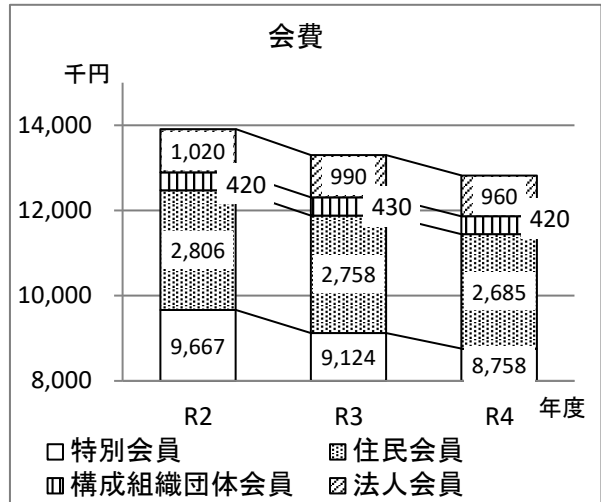
高齢者福祉センターで講習会を実施しました。



(10) 会員制度啓発推進事業

社協会員の適正な管理運営と会員制度の啓発を行いました。

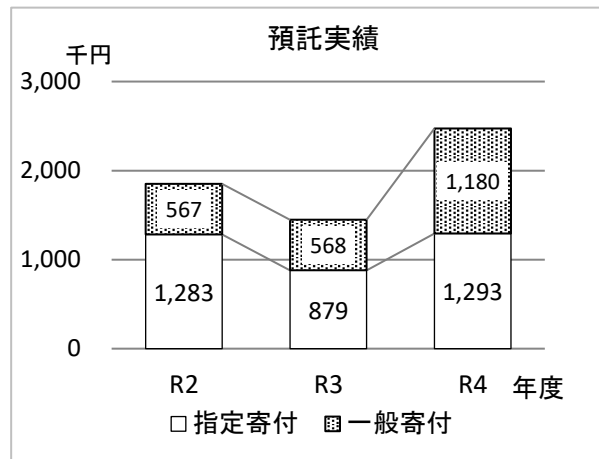
図や写真などを用いて分かりやすい依頼状と概要を作成しましたが、加入者は減少傾向にあります。
お世話人の負担軽減を目指し、集金等の事務処理を柔軟に行いました。



(11) まごころ銀行の運営

寄付を預託し、福祉サービス等の各種事業へ活用しました。

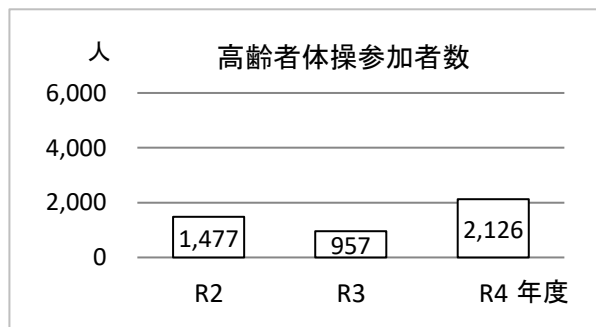
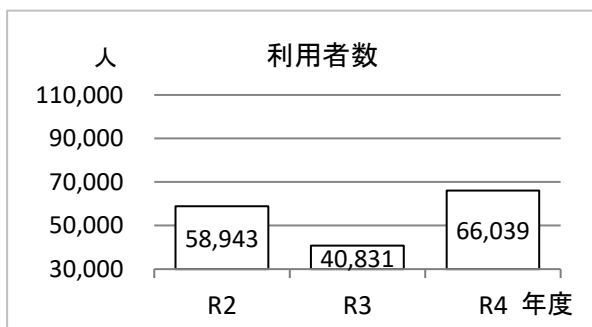
ホームページで預託者名を随時掲載しました。
飲料用自販機の子ども食堂支援募金協定を新居浜市、ダイドードリンコと締結しました。



(12) 総合福祉センター（本館）管理運営事業

安心安全な施設運営を行い、地域福祉の拠点施設として情報提供を総合的に実施しました。

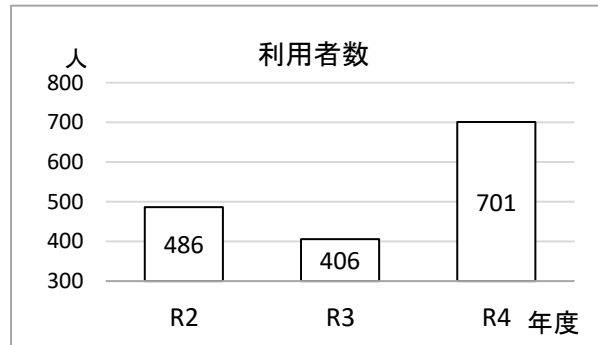
5S活動やアンケートにより、地域情報等の掲示物の管理を含め、施設環境を整えました。
施設整備計画を管理業者、市担当課と情報共有しました。
利用制限が緩和され、利用者数が回復しつつあります。



(13) 総合福祉センター（別子山分館）管理運営事業

適切な管理運営を行い、住民主体の福祉活動拠点として、地域住民の福祉の増進及び福祉意識の高揚を図りました。

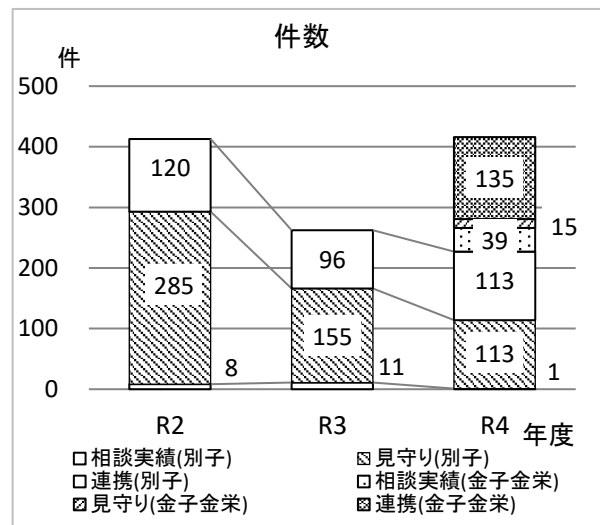
十全看護専門学校や児童施設課との連携により、関係人口創出事業を実施しました。施設紹介資料の素案を作成しました。



(14) 地域包括支援センター協力機関業務

高齢者の相談支援を実施しました。地域ケアネットワーク推進協議会（月1回）を開催しました。

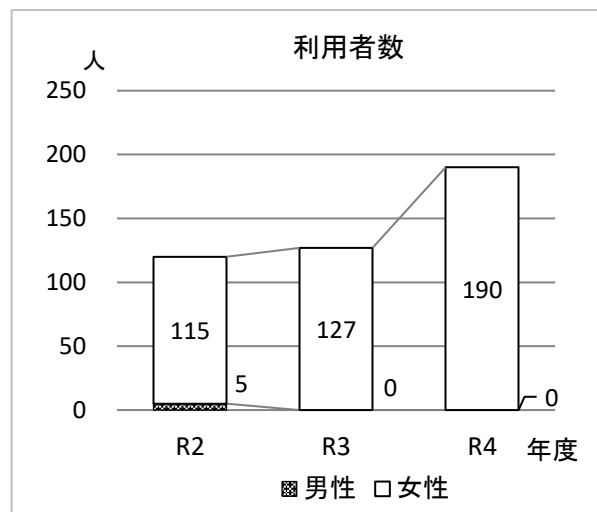
【別子校区】関係機関との高齢者宅の定期訪問を協議しました。
ICT(情報通信技術)活用した具体的な情報共有を関係機関と協議しました。また、民間事業者との共有も考察しました。
【金子・金栄校区】支部担当と連携しながら定期的に2層協議体を開催しました。またサロンや指導者の会に参加し地域の状況把握と信頼関係の構築に務めました。その結果、介護等の個別の相談件数が増加しました。(新規)



(15) 生き生きデイサービス事業（別子校区）

別子校区の高齢者の自立生活の助長、社会的孤独の解消、心身機能の維持向上等を目的とした内容を実施（月2回）しました。

コロナ対策を徹底して毎月実施し、校区内外の方々との交流も行いました。



2 児童福祉の推進

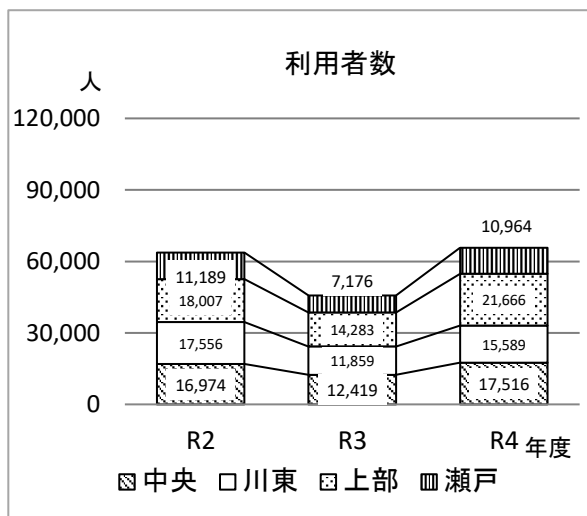
(1) 児童館運営事業

①一般来館児童対象事業

一般来館児童の遊びの指導や援助をしました。季節行事、あそびの広場を開催しました。

感染対策をを徹底し、安心して遊べる場所として親子や児童に利用してもらいました。SNS（ライン、マチコミメール）を開設し、情報発信しました。

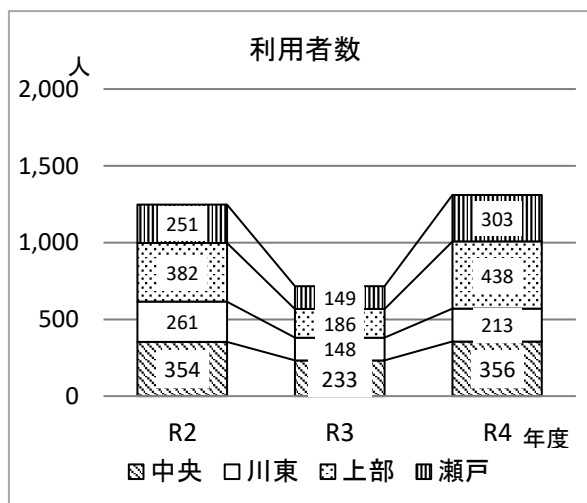
上部児童センターで南高等学校の生徒の協力を得て夏休み中に学習支援と休憩時間を使って交流をしました。



・あそびの広場実施状況

一般来館児童を対象に週に一度、異年齢で集団遊びや制作等を行う「あそびの広場」を実施し、子ども達に連帯感や仲間意識を育てることに努めました。

誰でも気軽に参加できる内容を計画し利用者のリクエストに臨機応変に対応し、楽しく遊んでもらいました。

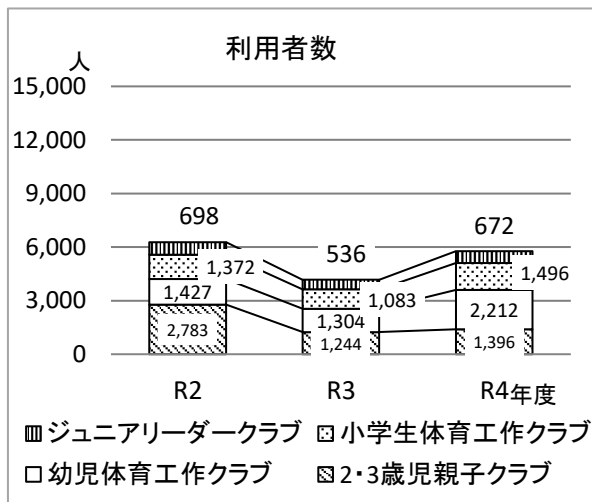


②クラブ活動

発達段階に応じた年齢別クラブを実施しました。

各クラブで楽しく過ごせる内容を実施しました。

2・3歳親子クラブは満3歳で幼稚園等に入園する人が多い傾向にあり、気軽に参加できるサークルを希望される方が多くなっています。

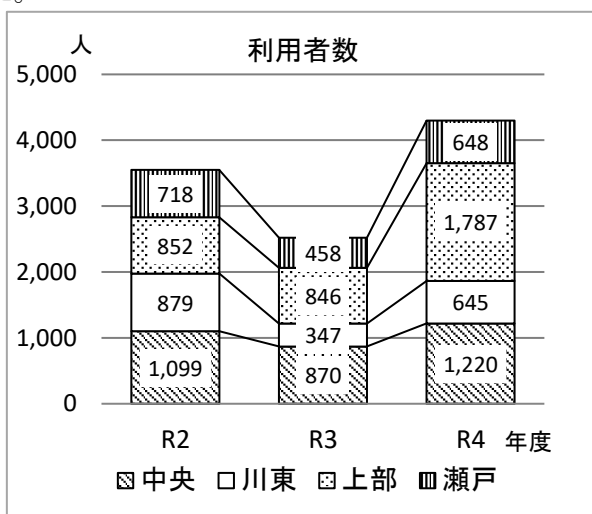


③サークル活動

概ね2歳までの親子を対象に、遊びを通して親子の絆を深めるとともに母親同士の仲間づくり、情報提供等、子育ての支援を行いました。

自由に参加でき、楽しい雰囲気が人気で多くの方が利用してくれました。

参加者の意見を聞き、新しプログラムを活動に取り入れることにより良い評価を頂きました。



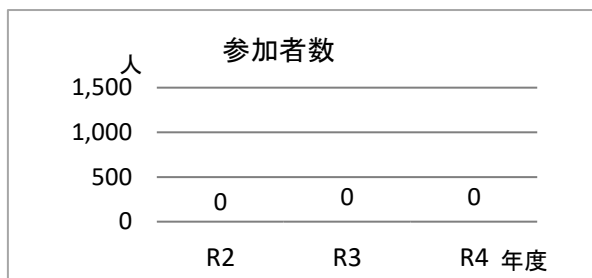
地域組織活動の育成、児童健全育成相談事業、子どもボランティア育成支援活動、豊かな文化の伝達や児童文化の提供を行いました。

敷居の低い気軽に相談できるように、話しかけを心掛けました。ボランティア活動は県ヤングボランティアと協力して活動しました。利用者の意見を聞きながら児童図書も充実させました。

(2) 児童健全育成事業

①いはいまやんちゃKIDS

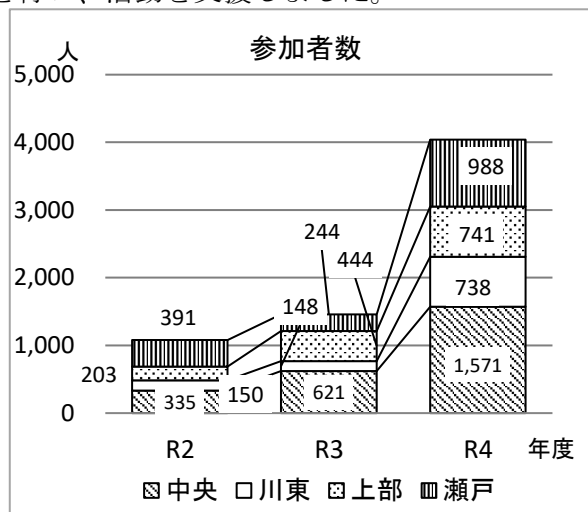
コロナ感染状況により、協力団体である市内高校生の参加が難しく中止しました。



②出前児童館

団体の依頼により地域で遊びの提供や指導を行い、活動を支援しました。

地域のイベント「百縁笑点街」に毎月出向き、遊びを提供しました。「おしながき」を見て依頼も増えました。



③子育てサロンへの協力

地域の子育てサロンに協力して、情報を共有し、子育て家庭を支援しました。

コロナで休止していたサロンの再開に合わせ、協力をすることができました。

④配慮が必要な児童への支援

発達や家庭環境に配慮が必要な児童に、関係機関と協力して継続的に支援しました。

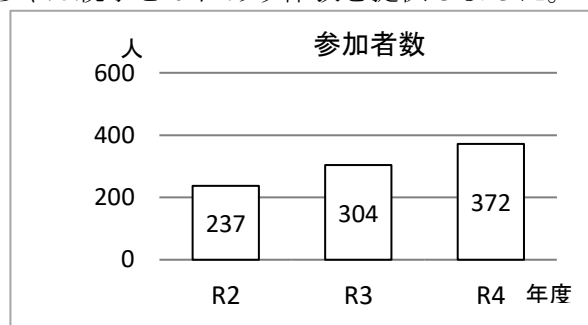
利用している児童との会話の中からいじめや虐待の有無を調査しました。

⑤いのちの授業

地域関係者の協力により、中学3年生が赤ちゃん親子とふれあう体験を提供しました。

コロナ感染状況から、ふれあい活動を中止し、いのちの授業のみ実施しました。

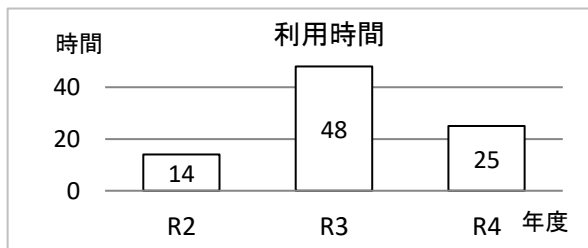
3校共に生徒から「参加してよかった」「命の大切さがわかった」などの感想を頂きました。



(3) エンゼルヘルパー派遣事業

養育者の産前産後、病気療養が必要な家庭にヘルパーを派遣し、生活の安定と子育て負担の軽減を図りました。

出産後間もない為、家事・育児に負担があり、周りからの支援を受ける事が出来ない家庭にホームヘルパーを派遣し、利用者の希望に寄り添った支援を行いました。令和4年度で市からの委託が終了しました。

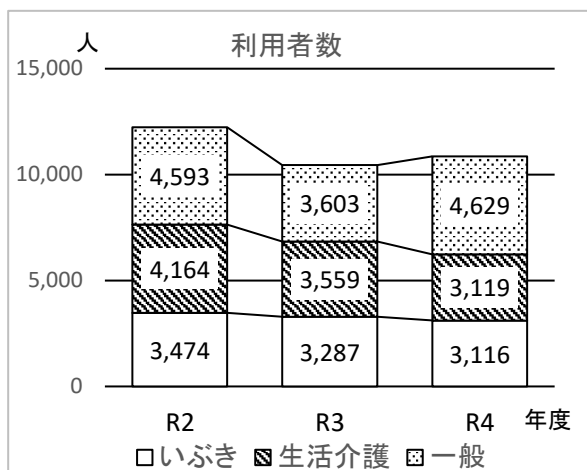


3 障がい者福祉の推進

(1) 障がい者福祉センター運営事業

障がい者に日常の場を提供し、教養の向上、社会参加、レクリエーションを供与し、福祉の増進を図りました。

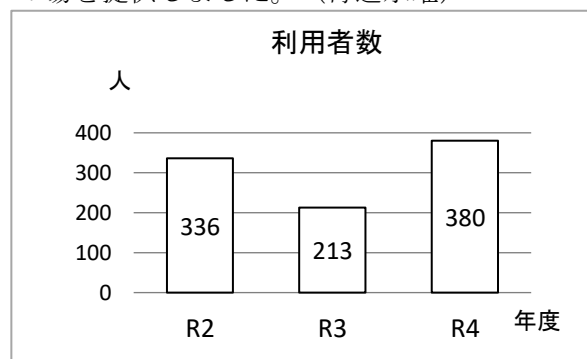
各関係機関と連携し、コロナ禍でも安心して実施できるよう行事内容の見直しを行いました。また、継続して各障がい者団体の支援活動を行いました。福祉避難所開設訓練では、コロナ禍に対応した訓練を行い、当事者の意見を取り入れながら手順の確認・情報共有を図りました。



(2) 障がい者サロン事業

仲間作りや情報共有などのコミュニケーションの場を提供しました。(毎週水曜)

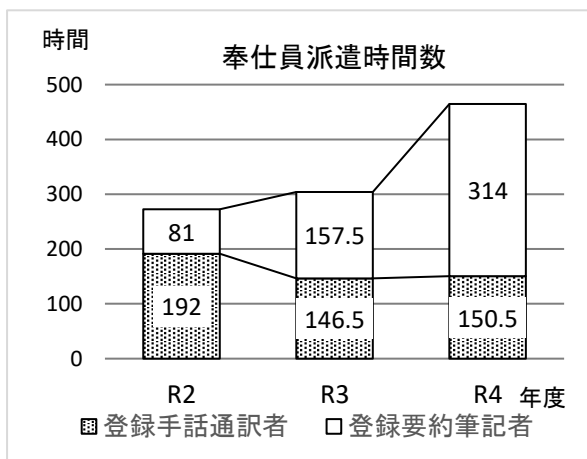
感染対策を行いながら利用者と一緒に活動内容を考え、ニーズに沿ったサロンを実施することにより参加者増になりました。また、活動内容を定期的にホームページに掲載し事業の周知を図りました。



(3) 障がい者在宅福祉対策事業

意思疎通支援事業、生活訓練事業、身体障がい者スポーツ教室等開催事業・大会開催事業、リフト付き福祉バス運行事業を実施しました。

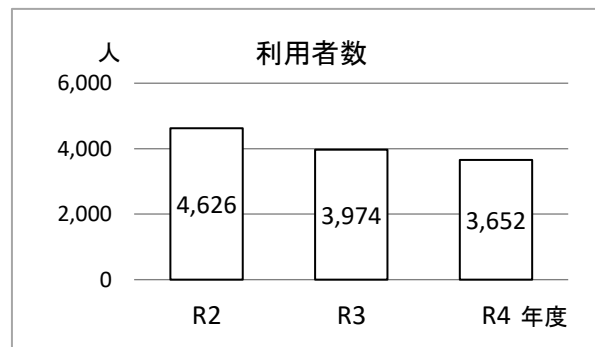
意思疎通支援事業では、新規利用者の増により派遣時間数が増えました。感染拡大防止対策を実施し、在宅障がい者の居場所づくりや活動支援を行いました。



内容	回数	人数	内容
生活訓練事業	18	231	料理教室・文芸教室・生け花教室・防災講和
身体障がい者スポーツ教室等開催事業	21	339	ボッチャ教室・バドミントン教室・水泳教室・軽体操教室
身体障がい者スポーツ大会開催事業	2	40	レクリエーション大会・バドミントン大会

リフト付き福祉バス運行事業

障がい者・児等の社会参加活動として事業を実施しました。利用者にも安心してもらえるように安全講習会を受講しました。

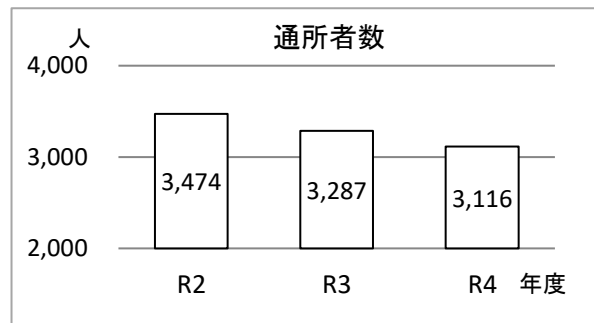


(4) 地域活動支援センターⅢ型「いぶき」運営事業

通所により自立更生に必要な訓練及び、職業的な作業等による自主製品作り、企業の受託や行事を通して、社会参加を促進しました。

特別支援学校のセミナーへの参加、関係機関へのパンフレット配布、HPへの活動状況掲載など、積極的に広報活動を行いました。地域交流会を年2回実施し、地域との交流、利用者の社会参加促進を図りました。

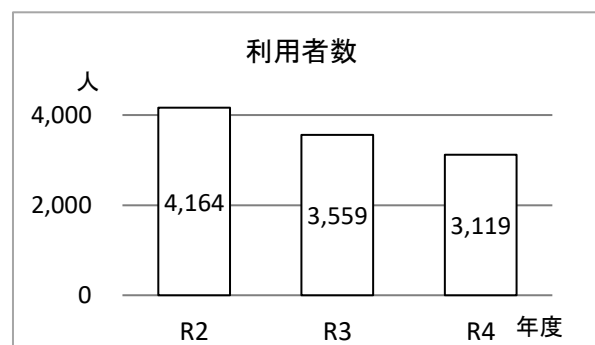
利用者個々の強みを活かせる支援ができるよう個別支援計画の様式を変更し、利用者の特性を活かしながら支援を行いました。



(5) 生活介護事業

障がい者の身体状況や環境に応じて、自立促進、生活の質の向上を図るため、日常生活上の介護や訓練及び創作活動を実施しました。

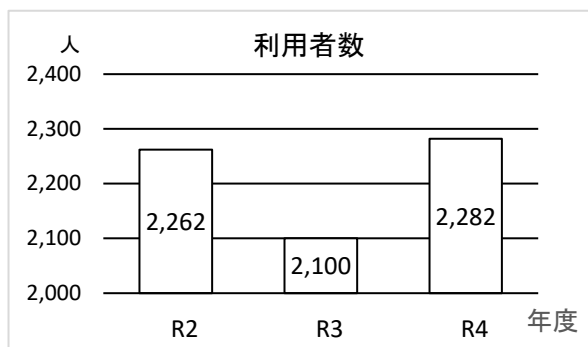
全職員が支援技術に関する研修を受講、情報共有することにより障がい特性に応じたサービス提供ができました。コロナ禍でも感染対策を行いながら安心・安全な事業運営を実施しました。



(6) 児童発達支援事業はげみ園

未就学の障がい児に対し、早期から特性に合わせた専門療育を実施しました。

コロナ感染症の影響で利用者数が減少しました。年間の1日平均利用者数は9.4名（最高：3月10.8名）でした。また、次年度4月初めから多数の新規利用者を受け入れることができるよう準備を行いました。



(7) 障がい者居宅介護等事業

居宅介護、重度訪問介護、行動援護、同行援護を実施しました。

①居宅介護

障がいがある方に対して身体状況等に応じた利用者本位の計画を作成し、身体介護、家事援助等生活全般にわたる援助を行い、地域生活を支援しました。

②重度訪問介護

重度の障がいがあり常時介護を要する方に対して、利用者本位の計画を作成し、介護、家事等の生活全般にわたる援助や外出時における移動中の介護を行い、在宅生活を支援する事業ですが、利用はありませんでした。

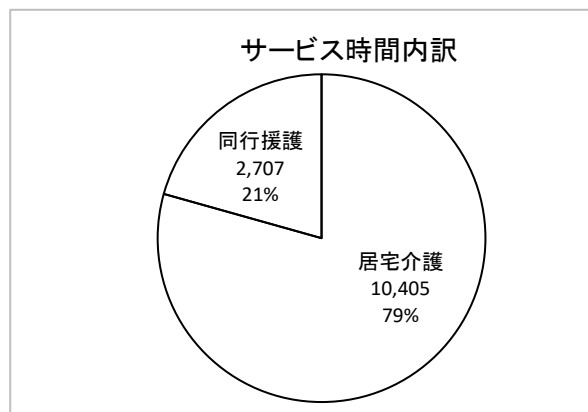
③行動援護

障がいがあることで行動に困難を有する方に対して、利用者本位の計画を作成し、行動する際に生じる危険を回避するための援護等を行い、社会参加と地域生活を支援する事業ですが、利用はありませんでした。

④同行援護

視覚障がいのため移動が困難な方に対して、利用者本位の計画を作成し、外出時に同行して移動の援護等を行い、社会参加と地域生活を支援しました。

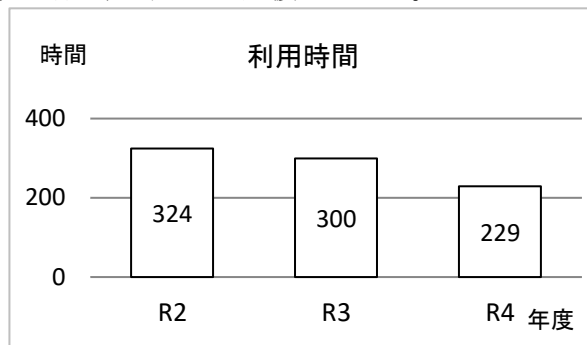
日常生活において、支援を必要とする障がい者に対し、ホームヘルパーを派遣し、自立した日常生活を営むことができるよう、食事・入浴・排泄などの身体介護や、家事・掃除・買い物などの家事援助、視覚障がい者の外出介護等の支援を行うことにより、生活の質の向上に資するよう努めました。



(8) 障がい者等移動支援事業

屋外の移動困難な障がい者に外出援助し、地域生活と社会参加を支援しました。

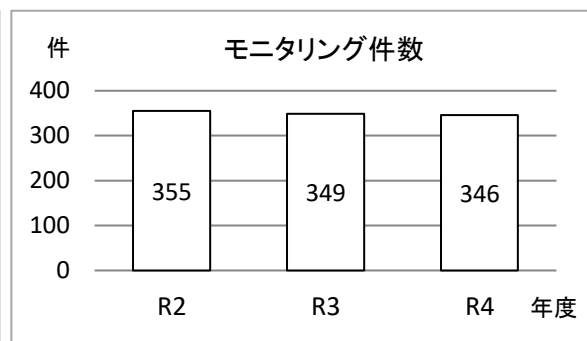
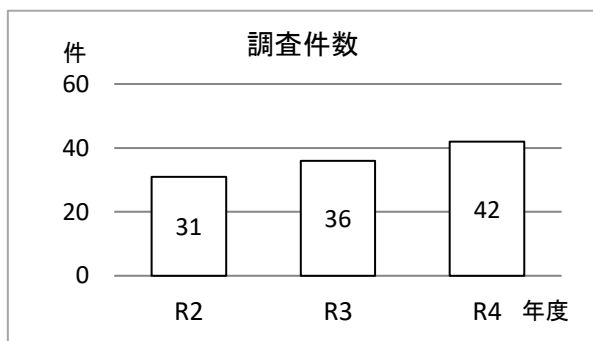
屋外での移動が困難な障がい者の方へホームヘルパーを派遣し、社会生活上必要不可欠な外出及び余暇活動等の社会生活参加のための外出に対して移動支援のサービスを提供し、地域生活と社会参加を支援しました。



(9) 相談支援事業

障がい者の自立に向けて課題の解決や適切なサービス利用に向けて相談支援を実施しました。

自立支援協議会関係部会（相談支援、子ども、医療的ケア児、精神保健医療福祉部会）への参加や関係機関との連携による情報共有を行い、早期のニーズ把握とコーディネートにつなげることができました。また、イベントの共同開催による広報啓発活動や講演会の実施協力など積極的に関係機関との連携を図りました。障がい者相談支援従事者専門コース別研修や強度行動障がい支援者養成研修等、各種専門研修を受講して支援技術が向上しました。

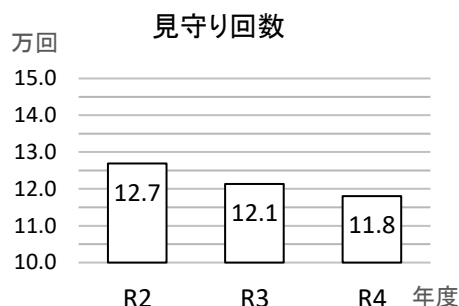


4 高齢者福祉の推進

(1) 独居高齢者見守り推進事業

在宅独居高齢者が安心して生活ができるよう、地域関係者の参加・協力で、見守り推進員による安否確認を実施しました。

システムを活用し、最新の情報に随時更新し、緊急を要する場合など必要時には迅速に他機関と連携しました。個別表様式を改定し、民生委員に周知しました。また見守り推進員研修を全体で行うことが困難なため、各支部にて実施しました。事業内容等の見直しは、行政と協議継続中です。



見守り推進員	見守り対象者
276	2,815

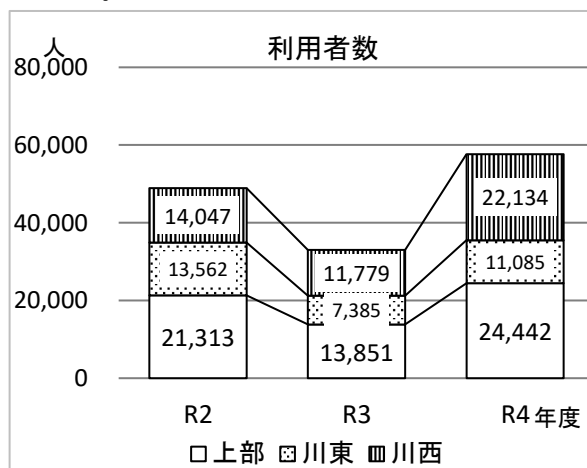
令和4年4月1日現在

(2) 高齢者福祉センター運営事業

① 高齢者福祉センターの管理運営

健幸（健康）長寿のまちづくりを実現するため、生きがい創出、健康づくり、生活支援を行う拠点として、幸齢者（高齢者）福祉の増進を図りました。

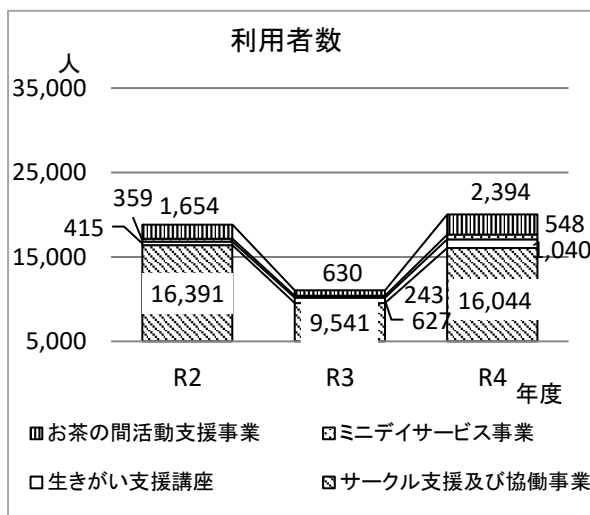
職場体験学習（中学校）の受入れや、地域の見守り活動推進団体、関係機関等との協働事業を行いました。ホームページに新着情報掲載するとともに民間情報誌等を活用し、高齢者福祉センター事業を広報（周知）しました。



②生きがい創出事業

サークル支援、講座により、仲間づくり・趣味づくり・社会参加をとおして、豊かな生活を送れるよう活力を創出しました。

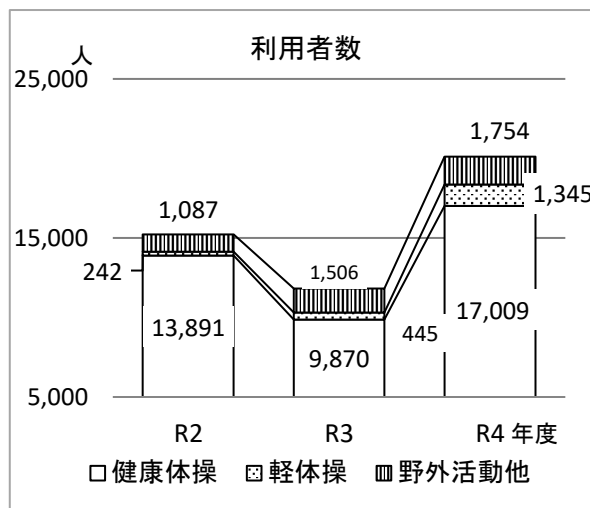
社協支部等の依頼により、地域へ出向く「出張サロン」を実施しました。例年と比べて実施回数は増加し、いろいろな会場で開催しました。社会福祉士による「終活」講座を開催しました。



③健康づくり事業

体操や健康教室の知識供与、相談・保健指導等で、健康維持・体力増進を図り、日常生活を送れるよう安全・安心を創出しました。

「朝の健康体操」、「健康教室」等、利用者のニーズに応えながら健康増進業務に取り組みました。障がい者施設課及び児童発達支援課の協力を得て、理学療法士による「自宅でもできる体操教室」を3センターで実施しました。



④生活支援事業

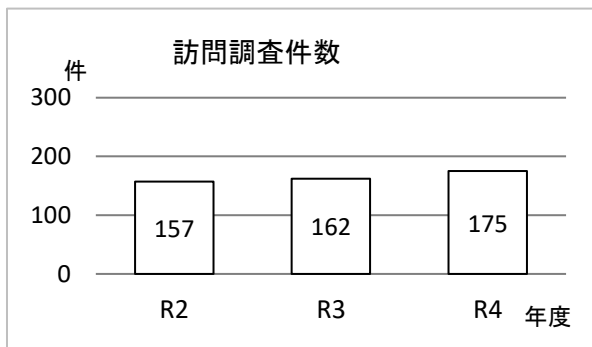
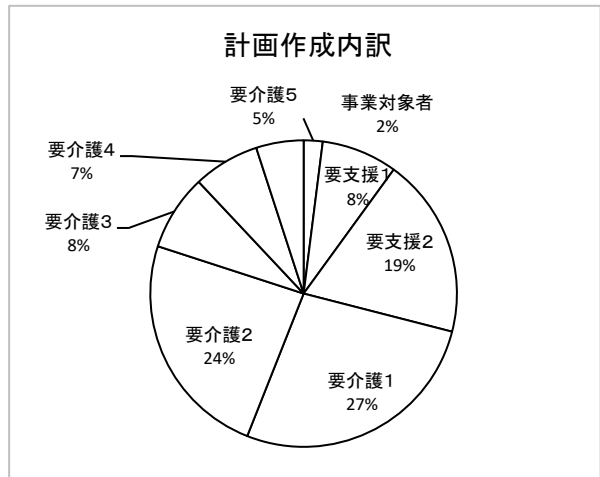
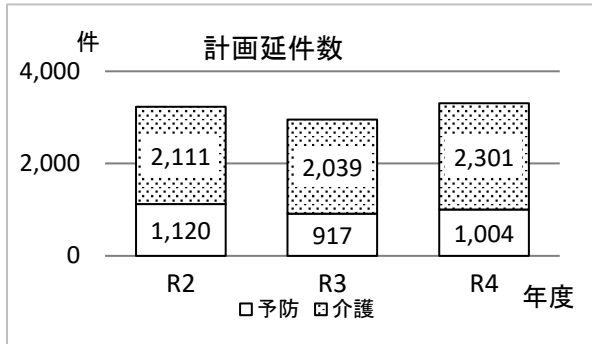
生活相談・指導で生活課題の早期発見と予防で、生活の安定を図り、関係機関と連携して生きる力を創出しました。

各センターを日中利用している独居高齢者等の状況について情報を整理しました。「くらしの課題」を抱える利用者への緊急支援事例を課内で共有し、今後の対応について話し合いました。

(3) 居宅介護支援事業

アセスメントを行い、利用者本位の計画を作成し、計画に沿ったサービスを提供しました。

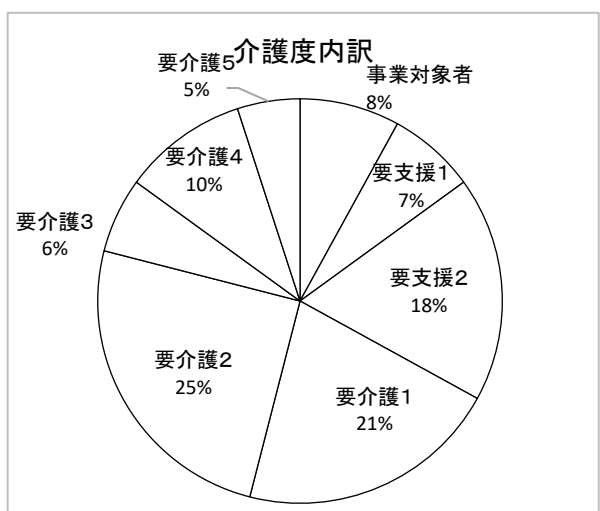
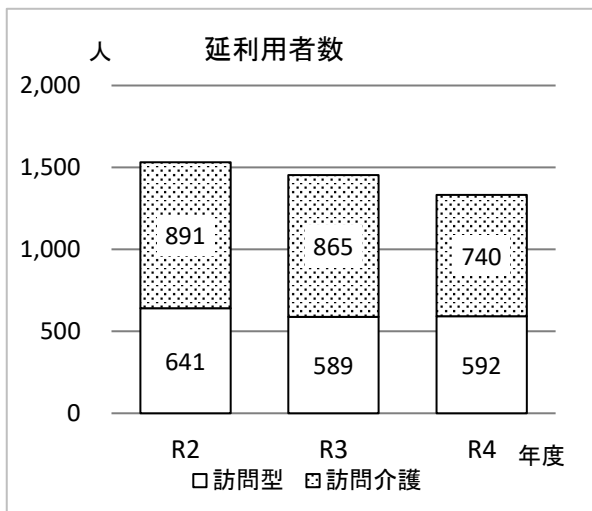
経営状況の分析や改善策について定期的な経営会議を行うとともに、理事会・評議員会・社協支部・老人クラブ・市内病院等にリーフレットを配布し居宅介護支援事業所のPRを行い、新規利用者の獲得、経営状況の改善に努めました。事業継続計画は現在作成中ですが、令和5年度中の完成を目指します。



(4) 訪問介護事業

利用者のニーズに沿った訪問介護計画を作成し、居宅においてサービスを提供しました。

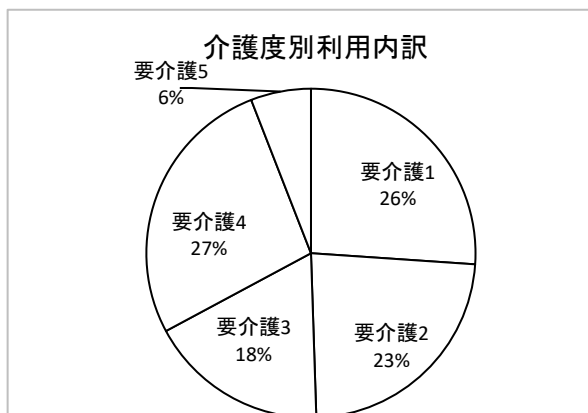
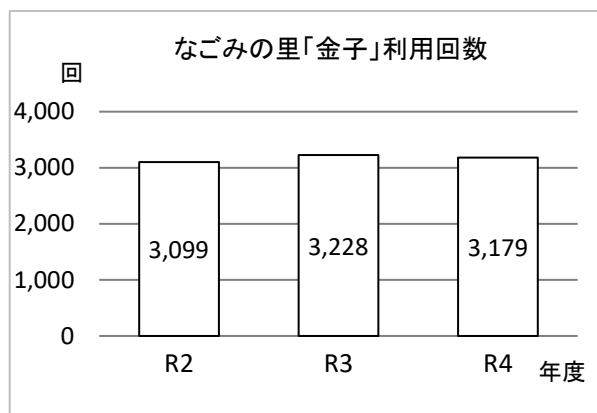
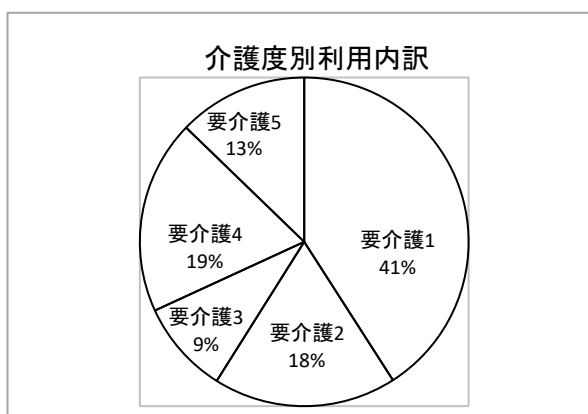
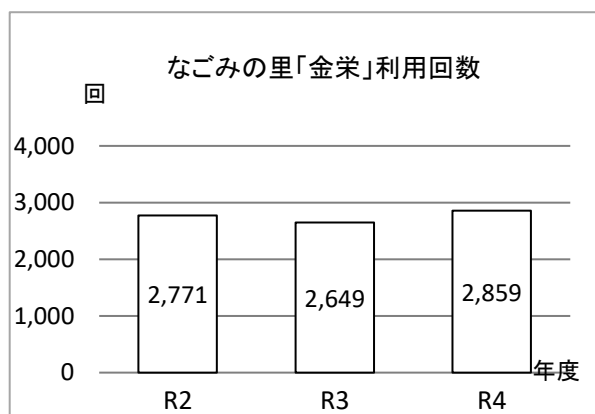
高齢者等が要介護状態になっても住み慣れた地域でいきいきと生活が送れるよう良質なサービス提供を目指し運営しました。コロナ禍であっても利用者の日常生活に必要な支援が滞ることのないように、感染防止対策に努めながら事業を継続し経営を行うことが出来ました。また、全国社会福祉協議会が発行する全国紙「ヘルパーネットワーク」で事業所の広報活動を行いました。事業継続計画は現在作成中ですが、令和5年度中の完成を目指します。



(5) 認知症対応型通所介護事業

認知症の方が可能な限り居宅での日常生活が送れるよう、入浴、食事介護や機能訓練を実施し、家族の身体的負担を軽減しました。

職員の正規化を行い、安定した事業運営の土台を固めました。また、ランチ業務担当者やケアマネジャーとの連携を密にし、1日平均利用者数の増加に努め、経営の改善を行いました。事業継続計画は現在作成中ですが、令和5年度中の完成を目指します。



(6) 訪問介護事業所職員連絡会運営事業

社会福祉協議会が運営する訪問介護事業所として、新居浜市内にある42事業所の内33事業所から構成される「訪問介護事業所職員連絡会」において、定期的な会議、情報交換会、交流会、合同研修会等を行い事業所間の連携を密にするとともに、新居浜市内における訪問介護事業の質の向上に努めました。

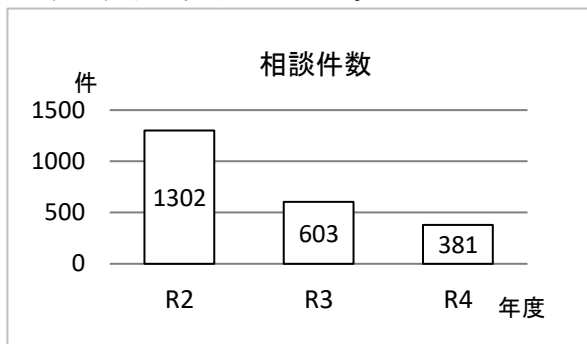
回数	参加人数	研修内容
15	137	役員会11回(78名)、交流会2回(18名)、合同研修会2回(41名)

5 権利擁護の推進

(1) 暮らしの総合相談・支援事業

専門機関や相談支援員が中心となり、日常のあらゆる相談を受付しました。

権利擁護課の職員が相談支援の専門性を生かし、あらゆる生活上の相談に対応しました。司法書士等の専門職や関係機関と連携したことで困難ケースにも対応することができました。

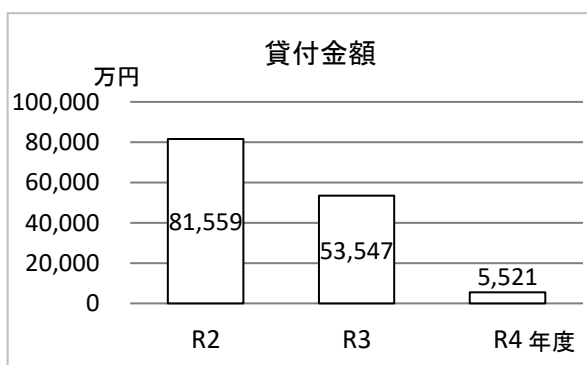


相談内容	相談員	相談日	開設日	件数
一般相談	自立相談支援員	毎日	243	353
登記、遺言、土地家屋調査相談	公証人、司法書士、土地家屋調査士	毎月1回	12	19
社会保険相談	社会保険労務士	毎月1回	12	2
精神障がい者家族相談	新居浜家族会会員	毎月1回	12	7
	合計		279	381

(2) 生活福祉資金貸付事業

低所得者や高齢者、障がい者の生活を経済的に支え、在宅福祉及び社会参加促進を図り、生活改善を支援しました。

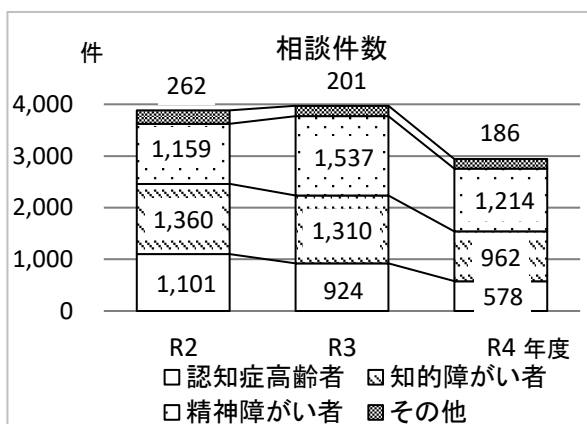
関係機関と連携しながら世帯の状況確認を行い、資金貸付により自立が見込まれる世帯に対して貸付を行いました。
また、相談支援を通じて家計の収支内容を明らかにすることで、貸付後も安定した生活が送れるように自立支援及び家計改善指導を行いました。



(3) 福祉サービス利用援助事業

判断能力が不十分な方が在宅で自立した生活が送れるよう、福祉サービスの利用援助や金銭管理等を実施しました。

多数の利用希望がありましたが、緊急度に応じて契約を行いました。今年度は新規契約2件、終了3件、合計50名の利用者の日常生活の自立支援に努めました。
利用者の希望にできる限り、寄り添いながら、安定した在宅生活が送れるように適切な助言・指導を実施しました。



(4) 法人後見事業

被後見人等身上監護、財産管理を適正に行い、相続関係、施設入所、福祉サービス利用契約の手続きを実施しました。

4月に開設した成年後見支援センターの構成団体として積極的に広報・相談活動を行いました。法人後見事業においては、他に受け皿のない3件を新たに受任し、合計13人の身上保護と財産管理を行いました。

・受任状況（令和5年3月31日現在）

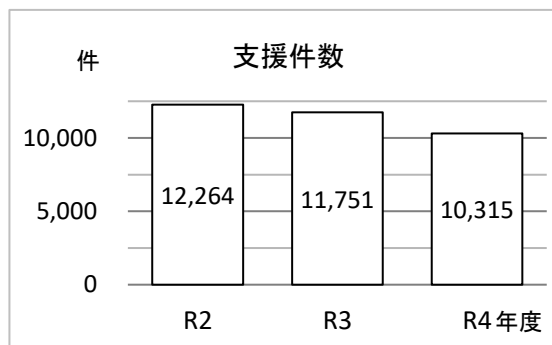
区分	認知症 高齢者	知的障 がい者	精神障 がい者	合計
受任者数	5	5	3	13

区分	後見	保佐	補助	合計
受任者数	8	5	0	13

(5) 生活困窮者自立支援事業

経済的困窮や社会的孤立など複合的な生活困難を抱える人々に、寄り添い型支援を実施しました。

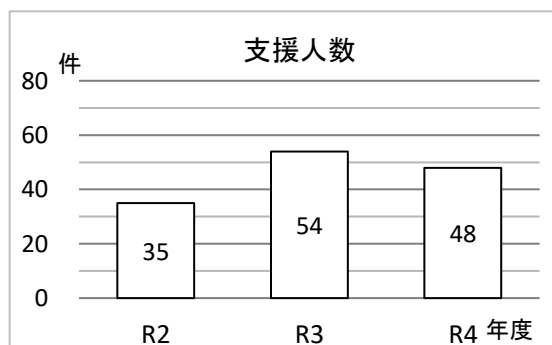
本人の尊厳の確保と自立支援を念頭に置き、複合的な課題を解決するため、支援者に粘り強く寄り添って、課題解決に向けて計画的に支援を実施しました。
関係機関との連携を図り、必要に応じてチーム支援も実施しました。



(6) 緊急食料等支援事業

緊急的かつ一時的に生活に困窮し、最低限度の生活を維持できなくなる世帯に相談支援、食料や日用品等を支給しました。

食料提供事業者との連携やフードドライブ等を活用することで、緊急の支援を要するケースに対しても、迅速かつ柔軟に対応することができました。



(7) 新居浜を明るくする運動推進事業

犯罪や非行のない安全・安心な地域社会づくりを目的として、保護司会、更生保護女性会等関係機関と連携しました。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い「新居浜を明るくする運動大会」の開催を中止しました。児童・生徒による文集の作成に向けて取り組みをすすめましたが、学校側との交渉の結果、作文募集は困難という結論となり、実施には至りませんでした。

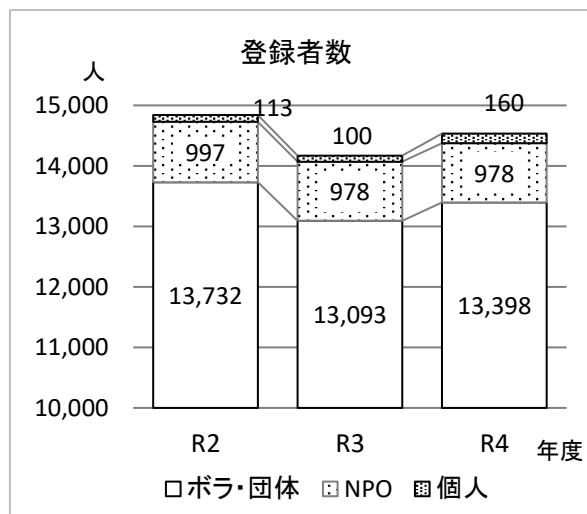
6 ボランティア活動の推進

(1) 福祉ボランティア推進事業

① ボランティア・市民活動センター運営事業

団体及び個人登録し、市民を様々な活動へと繋げ、総合的なボランティア・市民活動推進の場としての役割を担いました。

会議や講座に参加いただいた関係機関に対しアンケート調査を実施し、その結果からボランティアと団体等を繋ぐことができました。

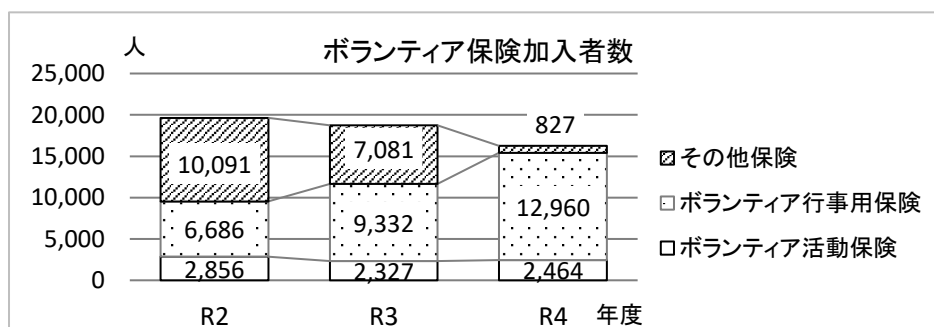
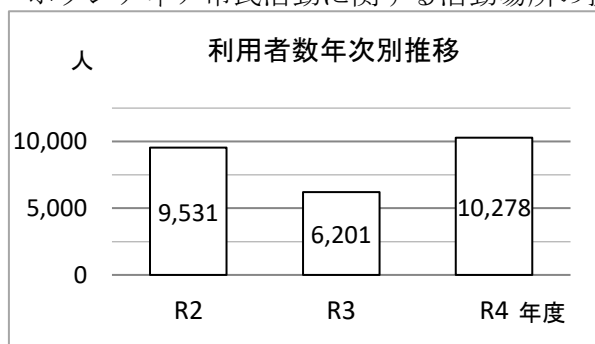


② ボランティア・市民活動に関する相談、援助、指導

ボランティア・市民活動に関する相談に対応し、中間支援を実施しました。

NPOに関する問い合わせ・相談などはほとんどありませんでしたが、書籍やインターネットからの情報収集に努め、相談に備えました。また助成金についての相談に対し、適切に情報を伝えました。

- ・ 来所、電話、メール等による相談、援助、指導
実績件数 1,029 件
- ・ ボランティア市民活動に関する活動場所の提供



③ ボランティア・市民活動に関する情報提供

市民の自発的な社会参加を促し、個人及び、団体の活動が活発になるように必要な情報を収集、提供しました。

ホームページ、LINE、Twitterでボランティア募集、助成金、イベント情報を発信しました。特にLINEユーザーからの応募が多くありました。また、ボランティアグループの活動風景をYouTubeで公開しました。

- ・「ボランティアinいはま」の発行（年12回） 毎月3,900部発行
- ・Twitter（ツイッター）、LINE公式アカウントによる情報発信
- ・市報による情報提供（6回）

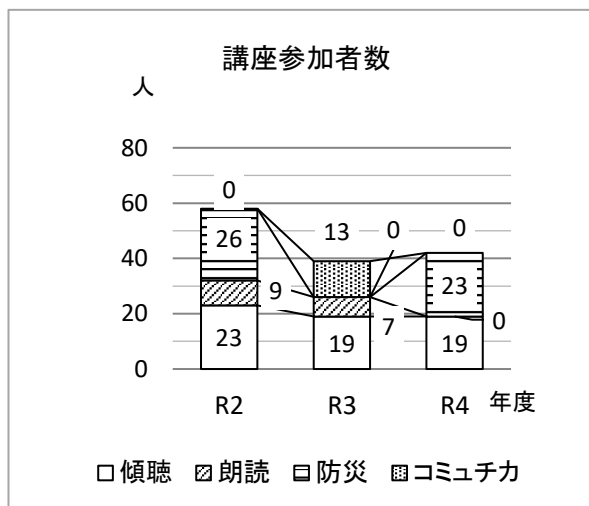
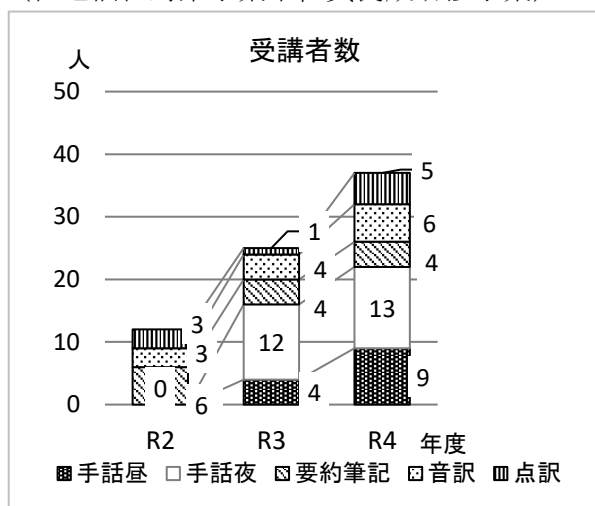
④ ボランティア・市民活動に関する研修

技術ボランティア養成講座、各種講座を実施しました。

初心者の方が気軽に講座に参加できるよう講座の様子をYouTubeで公開しました。また、各講座受講者にアンケートを実施し、改善点や次回講座内容の参考にしました。

- ・技術ボランティア養成講座
（在宅福祉対策事業奉仕員養成研修事業）

- ・ボランティア講座



⑤ その他

ボランティア・市民活動に関する福祉活動資材の整備、貸与、連絡調整を行いました。

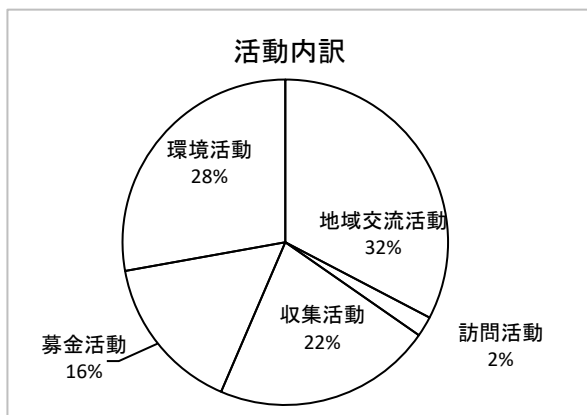
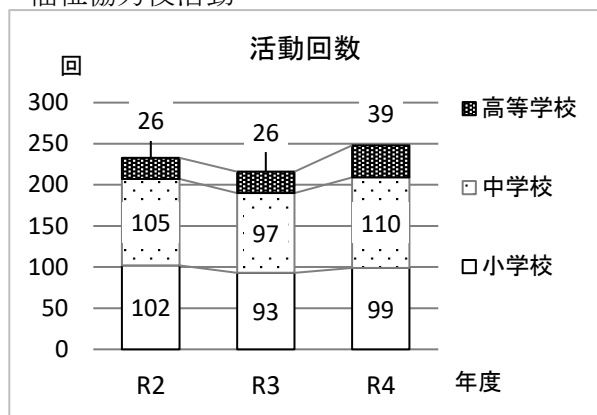
使っていない福祉活動資材を処分し、貸出時に向けて整備を行いました。学校、障がい者施設、団体より借用依頼があり高齢者体験セットやパラスポーツの道具を貸出しました。

(2) 福祉教育、生涯福祉学習

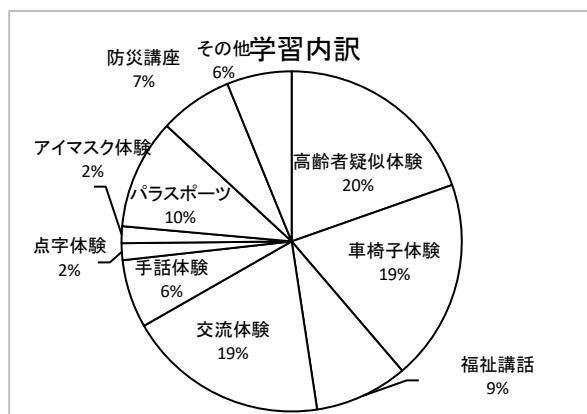
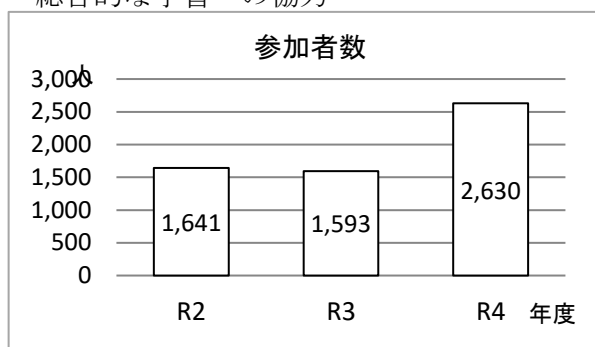
福祉学習の推進及び生涯福祉学習を支援しました。

福祉教育で学んだことを生かしたい学校と地域住民をつなげる交流イベントを実施しました。授業以外でも児童と地域住民とのつながりが見られるようになりました。またワークキャンプ中止の代替として中高生対象に「福祉のお仕事講座」を開催したり、福祉に関する作品を募集しました。

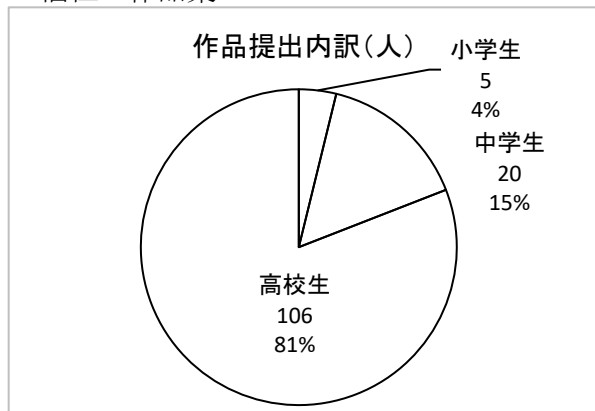
福祉協力校活動



・総合的な学習への協力



・福祉の作品集



(3) 災害ボランティアセンター設置運営事業

資材管理や災害ボランティアの受付相談、登録、管理を行い、講座を開催。ネットワークを構築し、訓練を実施しました。

災害ボランティアセンター設置・開設机上訓練を実施しました。また災害ボランティア登録者情報を更新しました。

災害ボランティア登録者 33人(男 24人、女 9人) 令和5年3月31日現在

7 社会福祉協議会の運営の強化

(1) 理事会・評議員会の運営

地域福祉を推進する団体としての経営責任を担う理事会、議決機関としての評議員会を開催しました。

計画や報告において、各課長から事業の年度の特徴等を明確に伝えました。評議員会では選出団体の話題等も提供しました。

種別	回数	延出席者	内容
理事会	4	50	31議案
評議員会	4	118	10議案
監事監査	1	3	令和3年度事業及び決算について

(2) 財務運営、管理

財源（民間財源、公費財源、事業収入財源）を確保し、継続・安定的な経営、会計法令に基づく経理事務を実施しました。

事務局会や経営会議により、経営状況を共有し、収益事業の課題整理を行いました。

(3) 人事管理・人財育成

採用・配置、評価、処遇、育成からなる人事管理制度の一体的運営を行いました。

5S、70周年記念委員会で各課職員が協議するなかで、交流を深めました。計画的な研修で知識技術を向上させました。映像研修eラーニングの提供で非正規職員の研修を実施しました。

(4) 労務管理

働きやすい環境の整備と労働法制を順守し、衛生委員会、健康診断を実施しました。

各職員が意識できるよう、健康維持の取組を各課で行いました。健康上の数値が気になる職員へ、個別に衛生委員会から注意喚起の通知をしました。ストレスチェック分析の結果を事務局会で提示して、管理職で現状把握しました。

(5) 社協発展・強化、その他計画の策定と進行管理

制度、地域生活課題などの外部環境、組織体制、事業推進体制、財務状況などの内部環境をもとに策定し、進行管理を行いました。

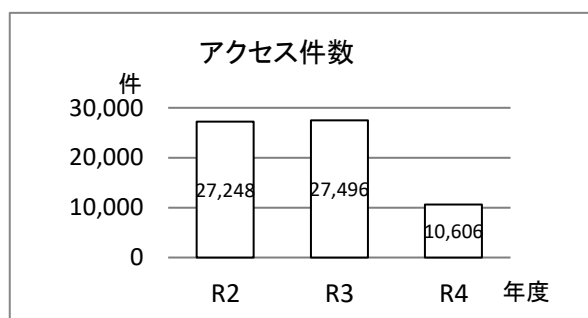
事業計画ヒアリングを詳細に行い、より具体的な次年度計画を策定しました。副課長以下の各課選出職員で、現場の課題を共有し、解決方法について話し合いました。

(6) 広報活動・広報戦略

社協だより・ホームページにより地域福祉活動を広報しました。

ホームページをリニューアルし、スマートフォン対応、各課からリアルタイムで更新できるようになりました。またSNSとも連携し、更新時にシェアできるようになりました。

「にいほま社協だより」を年6回（奇数月、1回あたり約42,000部）発行



ホームページ運営<http://www.n-syakyo.jp/>
 ※4年度はリニューアル（9月1日）後のアクセス数